

学校教育の課題探る

オンライン世界会議 若狭高校生徒ら議論



オンラインで世界教育会議に参加する生徒＝小浜市の若狭高校で

将来に向けた教育のあり方や、子どもたちの育成方法などを話し合う「二〇三〇年の教育を考える世界教育会議」が十九日、オンライン上で開かれた。小浜市の若狭高校では生徒五人が、同校の教室から参加し、議論を深めた。

議論のテーマは、新型コロナウイルス感染症拡大による学校教育への課題について。多くの国の教師や生徒、

政府関係者ら約二百人が、ビデオ会議システム「Zoom（ズーム）」を用いて取り組んだ。

参加者たちは十人ほどのグループに分かれ、学習環境の現状や、試験や進学への不安などを共有。国際探究科三年の田中陽菜さん（せは）は「一人で黙々と勉強をする日々が続いている。（勉強の進捗をサポートするために）今後は学びにお

いてコミュニケーションができる場をつくる必要があると思う」と自身の体験を基に考えを述べた。

他の参加者たちは「学校のカリキュラムを組むのが難しくなるのでは」「友人とのつながりが減っている」などの意見を出し合った。

世界教育会議は経済協力開発機構（OECD）が主催。二〇一五年からカナダや韓国で開催されてきた。

今回は新型コロナウイルスの影響で、初めてオンライン形式になった。（栗田啓右）